

魅力発信！えひめ農業NOW

令和4年7月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信

※2 この動向は、7月中に各普及地区から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564


<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>




目次



目次	1
7月のトピックス5選	3
うま茶の産地統一ブランド「結の霧ひめ」のPR・販売拡大に向けた協議	3
せとうちみなとマルシェへの共同出店等を協議	3
農業用ドローンで遮光剤散布を実証（果樹）	4
豪雨災害からの早期営農再開に向け、農業土木部門と普及部門が連携を強化	4
大野ヶ原にんにく生産性向上への取組強化	5
えひめ農業 NOW	6
■東予地方局 地域農業育成室	6
青年農業者とともに後継者育成を目指す	6
家族経営協定締結で家族が経営参画	6
■東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班	6
有害鳥獣捕獲グループ結成に向けた集落検討会を開催	7
■東予地方局 産地戦略推進室	7
「さくらひめ」の播種作業がピークを迎える	7
生産者ほ場で育苗現地講習会を実施	8
■今治支局 地域農業育成室	8
第1回今治地区魅力発信活動の開催	8
■今治支局 地域農業育成室 しまなみ農業指導班	8
学校給食地域食材活用懇談会を開催	9
上島町かんきつ栽培基礎講座の開催	9
■今治支局 産地戦略推進室	9
醸造用ぶどうの増糖に向けた現地実証を実施	10
花木目合わせ会と「さくらひめ」の閉鎖型育苗実証	10
■中予地方局 地域農業育成室	10
いちご健全育苗に向けて	11
いちごにおけるドローンによる遮光剤散布を実証	11
就農予定のJA研修生へ経営管理研修を実施	12
■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班	12
集落営農組織役員会を開催	12
さといも「愛媛農試V2号」の生育調査を実施	13
中山栗モデル園、今年も生育良好	13
■中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班	14
雑穀を使用した創作郷土料理の撮影の実施	14
■中予地方局 産地戦略推進室	14
「甘平」裂果対策実証ほを設置	14
パクチー周年安定生産体制の確立へ	15
「さくらひめ」鉢物栽培セミナーを開催	15
■南予地方局 地域農業育成室	15
ハイクリアランス仕様乗用管理機によるさといもの土入れ作業を実演	16

大豆の収量アップに向けフェロモントラップを設置	16
加工びわの省力栽培に向けたせん定・誘引を実演指導	17
水管理システム導入に向けた実証試験を開始	17
ミニトマトの栽培を目指す研修生が経営事例研修を受講	18
■南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班	18
早期米産地の再生に向けた品種・技術のポイントを指導	18
管内の生産者が西予市のピーマン産地を視察	19
愛南町の就農研修生を対象に講座を開催	19
福祉事業所職員を対象に温州みかんの摘果方法を指導	20
南宇和高校生にドローン撮影による園地の測定方法を指導	20
愛南の幸「ふるさと小包」を発送!	21
新規就農者の確保・育成・定着について関係機関と意見交換	21
■南予地方局 産地戦略推進室	21
欧州へ向け河内晩柑を輸出	22
産直市出荷者へ「媛かぐや」を提案	22
適正施肥に向け土壌診断を呼びかけ	23
■八幡浜支局 地域農業育成室	23
簡易アシストスーツの実用性を検討	23
日の丸地区で担い手支援チーム設立説明会を開催	24
「清見」の果皮障害軽減に向けたカルシウム剤散布の推進	24
第1回シトラス講座を開催	25
傾斜園地作業効率化モデル整備事業に係る推進会議の開催	25
三崎地区の青年農業者が地元高校生を対象に出前授業	26
高糖度果実安定生産技術シールドィング、マルチの現地実証試験を開始	26
■八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班	27
青年農業者が荒廃農地再生へ立ち上がる	27
ICTを利用した大型捕獲おりの現地研修会の開催	27
青年農業者と農業高校生の交流・研修会を開催	28
■八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班	28
青年農業者のかんきつ出前授業を支援	28
西予市三瓶町4Hクラブが土壌改善技術を研修	29
■八幡浜支局 産地戦略推進室	29
「川田温州」の安定生産に向けた意識統一	29
フィンガーライムの加工品 試作第2弾	30
■農産園芸課 企画調整グループ	30
新規採用農業職員を対象に新任普及職員等研修(前期)を実施	30
■農産園芸課 高度普及推進グループ	31
第1回作物調査研究会を開催	31
「ひめの凜」の穂肥講習会を開催	31
かんきつ基盤整備ほ場で緑肥作物の栽培が土壌流亡抑制効果を発揮	32



7月のトピックス5選

標 題	うま茶の産地統一ブランド「結の霧ひめ」のPR・販売拡大に向けた協議	機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和4年7月13日	場所	四国中央市新宮町
指導対象	うま茶振興協議会（全体会）（7人）	連携機関	四国中央市、JA うま
普及指導内容	<p>○令和4年度第1回うま茶振興協議会全体会の運営を支援した。</p> <p>○本年6月から新商品として販売開始した「結の霧ひめ（ほうじ茶）」の販路拡大策や今後の商品展開について提案するとともに、産地で喫緊の課題となっている収穫時の労働力確保等について今後の方針を協議した。</p>		
結果と今後	<p>○まずは県内でのPRと販路拡大に特化することとし、各種商談会への出展やバイヤー向け冊子への掲載等を当班主導の下、進めていく。</p> <p>○新商品については、9月に予定している県庁内販売会で新たなアイテムを投入するほか、クラフトビールなどお茶以外の商品化に関する協議を進めることとした。</p> <p>○労働力確保に関しては、人材派遣会社との連携結果や先進事例等を踏まえ、宿泊施設の整備が起爆剤となる可能性があるとの提案を行い、今後、市を中心に遊休施設の活用を含めた検討を行い、次回以降協議を進めることを申し合わせた。</p>		
<p>【うま茶振興協議会】 令和3年2月に四国中央市のお茶に携わる機関（県・市・JA・茶工場ほか）で設立。本年5月26日に産地及び商品の統一ブランド名「結の霧ひめ（ゆいのきりひめ）」を発表。6月5日から新商品を販売中。</p>		 <p style="text-align: center;">関係者が膝を交えながら振興策を協議</p>	

標 題	せとうちみたとマルシェへの共同出店等を協議	機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和4年7月4日、15日、26日、28日、29日	場所	管内各ほ場、各事業者事務所
指導対象	オリーブ、醸造用ぶどう生産者 レモン加工会社、ジビエ処理施設等	連携機関	せとうちみたとマルシェ実行委員会
普及指導内容	<p>○地方局予算事業「しまなみ地域の魅力ある農業産地化事業」の一環として、対象品目の中心的生产者等を訪問し、本年11月から今治港で開催される「せとうちみたとマルシェ」へのグループ連携による共同出店、ECサイトへの参加等を提案した。</p> <p>○今回のグループ化により、個々の販売ルートを共有するとともに相互の店舗等での販売、PR効果も期待できるほか、マルシェへの出店に際しては、生産者の負担軽減やブースの品揃え拡充、コラボ商品の開発等に繋がることを説明し協議した。</p>		
結果と今後	<p>○各事業者等から共同出店等についての賛同を得ることが出来た。</p> <p>○今後はコラボ商品の開発を目指すほか、販売物の集荷方法など共同出店の課題解決や、タオル美術館等での共有販売ブースの常設等についても検討する。</p>		
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>農産物加工会社との協議</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ジビエ関係者との協議</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>マルシェ実行委員会との協議</p> </div> </div>			


標 題	農業用ドローンで遮光剤散布を実証（果樹）		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年7月27日	場所	松山市堀江地区	
指導対象	JA えひめ中央新規就農研修センター	連携機関	県農林水産研究所、JA えひめ中央	
普及指導内容	<p>○農業用ドローンを利用して中晩柑類のビニールハウスに遮光剤を散布し省力効果を実証した。</p> <p>○スマート農業技術開発・普及促進事業の一環として実施。</p> <p>○遮光剤は希釈不要のドローン専用剤。</p>			
結果と今後	<p>○8リットルの遮光剤を約500m²のビニールハウスに散布するのに要した時間は4分であった（ドローンの飛行時間は9分）。</p> <p>○手散布による同作業に約45分を要することと比較すると作業時間の大幅な削減につながる実証できた。</p> <p>○実証結果は、農業用ドローンの活用事例として関係機関等で情報共有する。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-right: 20px;"> <p>【遮光剤】被覆資材に散布することで日照量を弱め、ハウス内の温度上昇を適度に軽減し、作物の葉焼けやしおれ等を抑制するための資材。</p> </div> <div style="display: flex; gap: 10px;">   </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> 薬液タンクに資材を注入 遮光剤散布状況 </div>				



標 題	豪雨災害からの早期営農再開に向け、農業土木部門と普及部門が連携を強化		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年7月6日	場所	南予地方局	
指導対象		連携機関	南予地方局農村整備課	
普及指導内容	<p>○豪雨災害の再編復旧スケジュールに合わせて、ハードとソフトの両面から農家を支援するため、当室と農村整備課で組織する「農林水産振興部営農支援チーム」において、工事完了後の硬い土壌の改良や、早期成園化に向けた取組み、新品種「紅プリンセス」導入等の営農支援方策について協議した。</p>			
結果と今後	<p>○6月7日に実施した、油圧式オーガ（らせん式穴掘り機）による苗木の植穴掘りの検証を踏まえて、8月下旬に農業者を集め、様々な機械を用いた硬い土壌の改良方法を現地で実証することや、復旧園地への大苗の供給体制等について情報共有を図った。</p> <p>○また、園地ごとの土壌の実態把握や経営指標に基づく品種導入の検討を進めるため、7月下旬から支援チームによる個別巡回を行うことを申し合わせた。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;">   <div style="margin-left: 20px;"> <p>左：転圧されて極めて硬い植穴</p> <p>右：JAが地元業者に委託して育苗</p> </div> </div>				

標 題	大野ヶ原にんにく生産性向上への取組強化		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和4年7月28日	場所	西予市野村町大野ヶ原集会所	
指導対象	大野ヶ原にんにく組合員（3人）	連携機関	西予市、(株) 祐	
普及指導内容	<p>○産地化を推進するにんにくの実証ほで行った施肥方法やマルチの種類別生育状況調査と、収穫用機械の実演による省力化の実証結果を報告した。</p> <p>○今年産の収穫量は2,800 kgで、目標生産量の確保に向け、栽培技術の向上と収穫作業の省力化が必要であると説明し、安定生産に向けて栽培マニュアルの改訂を提案した。</p>			
結果と今後	<p>○実証結果から、使用するマルチや追肥時期を決定するとともに、生産量の増加には収穫用機械が必要であるため、補助事業による導入を支援する。</p> <p>○栽培技術の向上に向け、9月上旬に先進地事例調査、栽培技術研修会を開催することとなった。</p> <p>○今後も実証ほでの調査や栽培マニュアルの改訂等を通じて、栽培技術向上に向けた取組を支援していく。</p>			
				<p>左：生産性向上を目指し関係者で協議</p> <p>右：乾燥にんにく（販売品）</p>



えひめ農業 NOW




標 題	青年農業者とともに後継者育成を目指す		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年7月7日	場所	西条市花き栽培ほ場	
指導対象	丹原・東予・小松高校生 36人	連携機関	県立丹原高校、同東予高校、同小松高校	
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○西条地区青年農業者連絡協議会花き実践班と協力し、丹原高校園芸科学科2年生らに、同班員が生産している花木、特産のバラ、多肉植物のほ場見学及びそれらを使ったアレンジメント体験活動を行った。 ○県が花木を推進する目的や産地の現状を説明し、挿し木実証に協力を得る高校生の意欲を高めた。 ○班員は「農業は勉強しだいで目標達成できるやりがいのある仕事」「5年後、10年後、皆さんと一緒に農業ができればと思う」と将来の担い手確保に向けてメッセージを送った。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○高校生に西条市が花の産地であることを伝え、農業の魅力を発信できた。生産から消費までを体験することにより、高校生の将来の花の消費が期待できる。 ○青年農業者の役割開発ができた。 			
				
新規就農者が花木の説明 全国5位のバラ産地をPR フラワーアレンジメント体験				



標 題	家族経営協定締結で家族が経営参画		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年7月19日	場所	東予地方局西条第二庁舎 大会議室	
指導対象	家族経営協定締結農家（2戸）	連携機関	西条市農業委員会、西条市	
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○農業経営に関わる家族全員が方針決定の場へ参画し、農業収益の分配を行うことをポイントに、家族で話し合いを進め、協定書を作成するよう指導した。 ○米麦野菜複合経営の農家とイチゴ農家が、市農業委員会事務局長および市農水振興課長、地域農業育成室長の立会いのもと、家族経営協定を調印した。 ○2組は経営目標を「環境にやさしく持続可能な農業を目指し次世代につなげる」「子どもたちが継ぎたい希望ある農業を目指す」と掲げ、共同参画で経営基盤の確立を目指すことを家族で改めて意識統一した。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○立会人からは「協定締結を機に家族の話し合いにより、より良い経営を目指し、地域農業のモデルになって欲しい」等とエールがあった。 ○今後、2戸は経営改善計画書の共同申請を行う予定で、女性農業者や後継者の地位向上が期待される。 ○今回の調印で、西条市の家族経営締結数は45戸となった。 			
				
左：家族経営協定書に調印 右：立会人との記念写真				

標 題	有害鳥獣捕獲グループ結成に向けた集落検討会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和4年7月9日	場所	四国中央市土居町上野	
指導対象	上野地区農業者（7人）	連携機関	四国中央市	
普及指導内容	<p>○有害鳥獣捕獲グループの結成に向け、集落検討会を開催した。</p> <p>○活動のグループ化における重要事項や規約案を説明するとともに、先月取り付けしたセンサーカメラの解析結果を報告し、大型捕獲おりの設置箇所について提案した。</p>			
結果と今後	<p>○大型捕獲おりの運用主体となる「本郷作目愛護グループ（仮称）」は、規約案を決定するとともに、最終的な設置箇所も決定した。</p> <p>○本年11月の大型捕獲おりの導入に合わせて、正式にグループ結成となる見込みで、当班は引き続きグループ活動の活性化に向け、関係機関と連携した指導・支援を進めていく。</p>			
				
		<p>左：メンバーで将来像を協議</p> <p>右：センサーカメラで鮮明に捉えたサル</p>		

標 題	「さくらひめ」の播種作業がピークを迎える		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和4年7月～	場所	新居浜市別子山地区	
指導対象	(有)別子木材センター（1人）	連携機関	県農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○7月中旬に播種作業（9月定植分）のピークを迎えている。</p> <p>○今年も夏季高温が予想され、ハウス内の温度が30℃以上にならないように遮光カーテンの開閉をコントロールするとともに、照度を測定し温度と日照のバランスをとりながら育苗管理を行うよう指導しているところ。</p> <p>○また、令和3年産種子の検定試験では、定期的に生育調査を行っており、草姿・花色・花型等に大きなばらつきがないことを確認。</p>			
結果と今後	<p>○播種作業については、予定どおり実施できており発芽率及び生育も順調である。今後は、定期的に温度と照度を測定し適正な育苗指導を行っていく。</p> <p>○令和3年産種子の検定試験の結果、発芽率や花の形質に問題がなかったことから、7月播種から自家採種分に切り替えている。</p>			
				
		<p>左：200穴トレイでの生育が順調</p> <p>右：照度を測定し遮光カーテンを開閉</p>		

標 題	生産者ほ場で育苗現地講習会を実施		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和4年6月15日、7月15日、28日	場所	旧東予市、旧丹原町、旧西条市	
指導対象	JA 周桑いちご部会、JA えひめ未来いちご部会 計33人	連携機関	JA 周桑、JA えひめ未来	
普及指導内容	<p>○いちごは育苗期の生育状況が定植後の収量や品質に大きく影響することから、育苗期管理の指導を強化している。</p> <p>○昨年度、炭疽病や萎黄病が多発し、良質苗が不足したことから、同病害の症状や生態、対策を現地の苗を用いて説明した。</p> <p>○育苗期の栽培方法について生産者間で議論し、技術の平準化を図った。</p>			
結果と今後	<p>○生産者における萎黄病や炭疽病の生態や防除法の認識を高めることができた。</p> <p>○現地講習会は8月にも実施し、病虫害防除の徹底や花芽分化を促す施肥指導を行う。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="text-align: right;"> <p>左：育苗管理方法を説明 右：栽培方法について議論</p> </div> </div>				

標 題	第1回今治地区魅力発信活動の開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和4年7月6日	場所	今治市伯方町	
指導対象	今治南高校園芸クリエイト科2年生(25人)	連携機関	県立今治南高校	
普及指導内容	<p>○消費者の地域農産物や農業への関心を高めるとともに、高校生に今治農業の魅力を発信し、就農への意識向上を図ることを目的に、「しまなみグリーン・ツーリズム推進協議会」会長（以下、「GT会長」）の農場において、グリーン・ツーリズムを体験する第1回今治地域魅力発信活動を実施した。</p> <p>○当日の様子は、今治CATVが30分程度の番組に編集し、地域情報チャンネルで1か月程度リピート放送する予定。</p>			
結果と今後	<p>○生徒らは、ハウスレモンの収穫やピザづくりを体験するとともに、GT会長から「台湾からの修学旅行生を受け入れた際、言葉が通じなくても心は通じ合えた」等のエピソードを聞いた。</p> <p>○第2回は11月に、今治産媛かぐやの収穫と加工体験を予定している。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <p>エコレモンの収穫</p> <p>ピザづくり</p> <p>生産者へのインタビュー</p> </div>				

標 題	学校給食地域食材活用懇談会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和4年7月7日	場所	上島町立岩城小学校	
指導対象	学校給食食材提供農家（3人）、関係 機関担当者（8人）	連携 機関	上島町、教育委員会	
普及指導 内容	<p>○上島町では、地域グループ「うまい会」が学校給食への地域食材を提供する活動を続けており、栄養職員、農家、関係機関が会して、活動の要望や改善点などの共有を図る目的で、岩城小学校の協力のうえ地域食材活用懇談会及び給食交流会を上島町と共催した。</p> <p>○当室より、活動を存続していくために後継農家の育成と直売所との連携について提案した。</p>			
結果と今後	<p>○令和3年度は町内産の農畜産物 77 品目、約 3,457kg を納入（全体シェア 23%）。</p> <p>○「農作物の下処理を食農教育の一環として、生徒に手伝ってもらうことで残食が減少した」と学校から報告があった。</p> <p>○課題として、生産者の高齢化と弓削地区への食材提供があげられ、新規の食材提供者の発掘を行うことを関係者で申し合わせた。</p>			
<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>【うまい会】 平成13年、上島町岩城で普及からの呼びかけにより、学校給食への食材提供を目的に組織されたグループ。会員10人で活動。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; width: 70%;"> <div style="text-align: center;">  <p>地域食材活用懇談会</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>給食交流会</p> </div> </div> </div>				

標 題	上島町かんきつ栽培基礎講座の開催		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和4年7月23日	場所	しまなみ農業指導班 岩城駐在所	
指導対象	兼業農家、新規就農者、農業に興味のある住民等（第1回11人）	連携 機関	上島町	
普及指導 内容	<p>○上島町では、後継農家の兼業者や移住者で農業に関心のある住民が多く見受けられ、一部の兼業農家から平日の講習会等への参加が難しいという意見があったため、これらの農業者等を対象にかんきつ栽培の基礎講座を土曜日に開催した。</p> <p>○講座では、座学による栽培の基礎知識と実証ほにおける樹形管理、摘果方法について実技指導を行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者は、弓削島、生名島からも参加しており、関心の高さがうかがえた。</p> <p>○本講座を活用して、「聞く」「見る」「実践する」を通じて、かんきつ栽培技術を習得してもらい、次代の担い手（定年就農者）の確保と農用地の利用率の向上の一助になればと考えている。</p> <p>○今後、計4回の講座を計画している。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>座学</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>実証ほ場でかんきつの樹形管理と摘果指導</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>				

標 題	醸造用ぶどうの増糖に向けた現地実証を実施		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和4年7月21日	場所	今治市上浦町	
指導対象	生産農家（2人）	連携機関	大三島みんなのワイナリー	
普及指導内容	<p>○令和3年産のぶどうは夏季の多雨の影響で低糖、着色不良となった。そこで増糖による果実品質向上を図る新たな実証として、収穫時期の異なる2品種（マスカット・ベリーA、シャルドネ）の園地に表面排水ができる明渠と全面マルチ区を設置した。</p> <p>○マルチシートを開閉することで雨水の流入量を調整できるため、農家には天候と樹体の様子に合わせて管理するように指導した。</p>			
結果と今後	<p>○果実品質向上を通じて、生産者の売上増加とワインの品質向上が期待できる。</p> <p>○今後は収穫時期に当たる8月～9月にかけて糖、酸などの果実品質分析を行い、処理の効果を検討する。分析値等は8月1日開催の講習会等を通じて生産者に報告するとともに、得られた実証結果等は栽培マニュアルへの記載を検討する。</p>			



ベリーA区の排水溝の設置



シャルドネ区のマチ張り



設置された全面マルチ区

標 題	花木目合わせ会と「さくらひめ」の閉鎖型育苗実証		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和4年7月12日～14日、27日	場所	管内JA支所、タオル美術館	
指導対象	花木生産者（29人）	連携機関	JAおちいまばり、タオル美術館	
普及指導内容	<p>○花木類の出荷量向上のため、今治市内5か所で花木目合わせ会を開催した。</p> <p>○生産者から出荷基準が分かりにくいという声が多かったことから、当室は調整方法及び先進栽培者のほ場の1年間の変化等を、動画を用いて説明した。</p> <p>○25日より普及組織先導型革新的技術導入事業で導入された閉鎖型育苗システムを活用し「さくらひめ」の育苗実証を開始した。</p>			
結果と今後	<p>○目合わせ会には29人が参加し秀品と優品の違い等について生産者と意見交換したところ、秀品と優品の区分を間違えて出荷していた人も多く、認識を改めることができた。</p> <p>○閉鎖型育苗施設で生産された「さくらひめ」の苗は、市内の栽培者やタオル美術館等での切り花及び鉢物としての栽培実証を通してその生産力等を確認する。</p>			



動画で花木の出荷調整等を説明







編集した規格調整方法の動画






「さくらひめ」の閉鎖型育苗



標 題	いちご健全育苗に向けて		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年7月1日、6日	場所	松山市荏原、北条、東温市南吉井	
指導対象	いちご生産農家（40人）	連携機関	JA えひめ中央	
普及指導内容	<p>○いちごの高品質・安定生産技術の向上を図るため、いちご育苗講習会を開催した。</p> <p>○昨年、発生が多かった炭疽病の対策を中心に、効果的な育苗期薬剤防除体系や定植本数の2～3割増しの苗確保を呼びかけた。</p> <p>○培土の過湿対策として、昨年試験を実施した酸素供給剤の施用効果が見られたことから、持続型酸素供給剤の情報提供を行った。</p>			
結果と今後	<p>○苗不足にならないよう約2割増しの苗確保が必要である。</p> <p>○7月～8月にはほ場巡回を行い、苗の生育状況を確認する。</p>			
				<p>左：効果的な防除方法を説明 右：育苗中のいちご苗</p>



標 題	いちごにおけるドローンによる遮光剤散布を実証		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年7月26日	場所	東温市上村	
指導対象	いちご生産農家（1人）	連携機関	県農林水産研究所、JA えひめ中央	
普及指導内容	<p>○いちご定植後の昇温抑制のため、いちごハウスにドローンを使って遮光剤の散布実証を行った。</p> <p>○いちご定植後の昇温対策として、寒冷紗被覆や動力噴霧器による遮光剤散布が行われているが、今回、省力化を目的にドローンによる遮光剤散布を行った。</p> <p>○ドローンでの散布は、危険な高所作業が不要で、遮光剤も希釈なしでそのままタンクに注入できる。</p>			
結果と今後	<p>○5aのハウス散布にかかった時間は7分8秒。</p> <p>○今後、講習会等で省力化等の効果について周知する。</p>			
				
ドローンによる遮光剤		散布前		散布後




標 題	就農予定の JA 研修生へ経営管理研修を実施		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年7月5日、15日	場所	JA えひめ中央新規就農研修センター 会議室	
指導対象	研修生8人(JA えひめ中央7人、JA 松山市1人)	連携 機関	JA えひめ中央、JA 松山市	
普及指導 内容	○自営就農を目前にした JA 研修生の「経営管理技術について学びたい」との意向をも とに、当室が両 JA に開催を促し、経営管理研修を実施した。			
結果と今後	○参加者に対しては、青色申告に対応した複式簿記の仕訳について指導し、理解させる ことが出来た。今後計画している残り3回の研修で、農業経営に必要な複式簿記の知 識を概ね習得させることとしている。 ○今後は、新たな参加希望にも対応するとともに、指導内容や方法については両 JA と 連携のうえ、役割分担も行いながら、就農を目指す研修生のニーズに応じて行く。			
<p>【JA 研修生】 「農業次世代人材事業」等を活 用して最長2年間の就農前の研 修を JA で実施し、研修後は自営 就農等を予定している。</p>		 <p style="text-align: center;">経営管理の講義</p>		


標 題	集落営農組織役員会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和4年7月15日	場所	伊予農業指導班	
指導対象	伊予地区集落営農組織等連絡協議会 役員（6名）	連携 機関		
普及指導 内容	○スクミリンゴガイにおける実証試験の状況や今後のさといも栽培の注意点等につい て検討した。 ○田植え後のスクミリンゴガイの発生や薬剤試験の実施状況を共有し、効果を検討する とともに、さといもについては、県下各産地の生育状況や疫病・ハダニ類等の病虫害 対策について情報を提供。 ○役員からは、肥料高騰対策として、堆肥の施用等による水稻の減肥栽培や代替資材の 検討と、化成肥料の廃棄物（プラスチック被膜殻）対策であるペースト肥料について 研修したいとの強い要望があった。			
結果と今後	○スクミリンゴガイの被害は昨年度並みで大きな減収の恐れはなく、実証試験の成果が 出ていることを確認できた。スクミリンゴガイの実証試験や、さといもの生育・収量 調査結果については、研修会を開催して情報共有を行う。 ○肥料高騰対策や化成肥料の廃棄物対策は、県農林水産研究所や肥料・農機具メーカ ーとも連携し、低コストで周辺環境に優しい農業が展開できるよう効果的な手法を検討 する。			
 <p style="text-align: right;">役員との協議</p>				



標 題	さといも「愛媛農試V2号」の生育調査を実施		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和4年7月7日、25日	場所	(株)まさきばたけ ほ場 (松前町中川原地区)	
指導対象	管内さといも生産者	連携機関	県農林水産研究所	
普及指導内容	○今年は県下全域で、定植後の少雨の影響により、さといもの生育に遅れがみられるため、地下部の肥大状況を確認する生育調査を実施した。			
結果と今後	○7月25日時点において、3株平均で、草丈135cm、子孫重531g、親芋重317gとなり、7月上旬以降、断続的にまとまった降雨があったことにより地下部の着生・肥大が進み回復傾向がうかがえた。 ○次回は8月に調査を実施する。 ○栽培歴の浅い生産者が多いことから、生育や病害虫発生状況を確認しながら栽培指導を行い、収量と品質の向上を目指す。			
			左：草高等の計測 右：掘り取った芋	


標 題	中山栗モデル園、今年も生育良好		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和4年7月7日、29日	場所	伊予市中山町栗モデル園5ほ場	
指導対象	管内栗生産者	連携機関	伊予市認定農業者協議会、伊予市、 JA えひめ中央	
普及指導内容	○大玉で省力安定生産ができる中山栗高収益モデル園等の巡回を実施した。 ○昨年度実施した低樹高せん定後の樹勢状況と、着実状況を確認した。			
結果と今後	○本年は、中山地区では雨量が少なく、着実数は平年並みからやや少の状況の中、中山栗高収益モデル園は3実/枝の着実であった。 ○今後、生理落果の状況を確認しながら、8月の適期防除指導を実施し、高収量を目指す。			
			左：モデル園の巡回 右：低樹高化されたモデル園	



標 題	雑穀を使用した創作郷土料理の撮影の実施		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和4年7月19日	場所	久万高原町久万 物産館みどり	
指導対象	久万高原町生活研究協議会員 (8人)	連携 機関	久万高原町	
普及指導 内容	<p>○高齢者の生きがいつくりや耕作放棄地対策、地域食材の伝承にもつながることから、「久万高原地域食材伝承事業」により、雑穀の生産振興を図っている。</p> <p>○郷土料理の「技」の継承を目的として、久万高原町生活研究協議会メンバーの協力のもと、「地とうきび」の粉を使用した「はなこねり」と、「たかきび」の粉を使用した「たかきびの団子汁」の調理動画を撮影した。</p>			
結果と今後	<p>○愛媛 CATV と連携し、雑穀の生長の過程から郷土料理が出来るまでを動画として記録を残すとともに、YouTube 等のネット配信を計画している。</p> <p>○今年度から、新たに雑穀の栽培に取り組む2戸を含む6戸の栽培農家の指導を継続するとともに、久万高原町、JA 松山市とも連携し、雑穀を利用した久万高原らしい新商品の開発などを通じて地域の活性化を図る。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="text-align: right;"> <p>左：郷土料理調理の撮影</p> <p>右：完成した郷土料理</p> </div> </div>				


標 題	「甘平」裂果対策実証ほを設置		機関名	中予地方局産地戦略推進室 " 地域農業育成室
年月日	令和4年6月30日～	場所	松山市、伊予市	
指導対象	「甘平」生産農家(10戸)	連携 機関	JA えひめ中央、JA 松山市	
普及指導 内容	<p>○「甘平」の連年安定生産を目指し、JA と連携して裂果対策の実証ほを設置。</p> <p>○令和4年度は、pF 値(水分値)を基にしたかん水管理の実証及び「総合的裂果対策」として、テンションメーター(土壌水分計)の活用や土壌改良、マルチ処理、遮光の複数対策を同時に行う実証に取り組む。</p> <p>○実証ほ設置にあわせて、JA 指導員にテンションメーターの設置方法と注意点を、実証農家に pF 値を基にしたかん水方法について指導。</p>			
結果と今後	<p>○テンションメーターを活用した実証ほと「総合的裂果対策」の実証ほをそれぞれ2園地に設置し、pF 値を基にしたかん水を即日開始。</p> <p>○今後は8月上旬に調査樹の着果数調整、8月下旬に裂果数と果実品質調査を行い、各処理が裂果率及び果実品質に及ぼす影響を調査する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> 設置したテンションメーター 総合的裂果対策の実証 JA 指導員による実証ほの設置 </div>				


標 題	パクチー周年安定生産体制の確立へ		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和4年7月12日	場所	JA えひめ中央東部営農支援センター	
指導対象	パクチー生産者13人 (うち新規生産者5人)	連携機関	JA えひめ中央、松山市、東温市、砥部町	
普及指導内容	<p>○中予地域のパクチー周年安定生産体制の確立を目的に地方局予算事業「令和4年度パクチー周年安定生産体制確立事業」第1回対策会議を開催。</p> <p>○これまでの「東温パクチー産地づくり事業」の成果を踏まえ、令和4年度から新たに対象地域を中予地域全体に拡大し、夏季栽培を中心とした周年安定生産技術の実証やは種時期に応じた技術の確立、パクチーの活用方法やPR等の取組みについて説明。</p>			
結果と今後	<p>○出席者からは、夏季の腐り防止などの高品質安定生産対策や収穫調整の作業時間、乾燥粉末の加工や冷凍品利用等の質問が出され、活発な意見交換がなされた。</p> <p>○新規栽培者の確保や栽培面積の拡大、現地実証による周年生産技術確立のほか、主な出荷先である関西方面でのPR活動を展開する。</p>			
				
実績と計画について説明				



標 題	「さくらひめ」鉢物栽培セミナーを開催		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和4年7月29日	場所	県農林水産研究所花き研究指導室	
指導対象	「さくらひめ」鉢物生産者等(13人)	連携機関	県農林水産研究所、農産園芸課	
普及指導内容	<p>○「さくらひめ」鉢物生産者の栽培技術の向上を図るとともに、市場・消費者ニーズを把握するため栽培セミナーを開催し、生産者、伊予農業高校の学生など21人が参加。</p> <p>○今年度の事業の進捗状況(市場等の需要調査結果やInstagramを活用した情報発信、フォトスポットの設置、実証ほ設置計画等)について報告。</p> <p>○(株)JF兵庫県生花大阪本部から市場動向についてリモート講演を実施。</p>			
結果と今後	<p>○市場の需要動向や「さくらひめ」の販売・PR方法について理解を深めるとともに、害虫防除や肥培管理の徹底等についての意識啓発がなされた。</p> <p>○8月下旬以降、下葉の黄化対策や3月出荷に向けた実証ほを設置。</p> <p>○10月下旬に生産者と伊予農業高校の学生との寄せ植え講座を開催する計画。</p>			
				
事業の進捗状況について説明				
				
市場の需要動向について(リモート講演)				


標 題	ハイクリアランス仕様乗用管理機によるさといもの土入れ作業を実演		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年7月1日	場所	宇和島市津島町	
指導対象	さといも栽培農家（4戸）	連携機関	県農林水産研究所、JA えひめ南	
普及指導内容	○さといもの土入れ作業は、子芋からの萌芽や葉の展開を促進させる上で重要であるが、従来の一輪管理機による土入れは夏場の重労働となっている中で、最近注目されている「ハイクリアランス仕様乗用管理機」による土入れ作業の実演会を開催した。			
結果と今後	○同機械は、車高が高く、成長したさといもの茎葉をまたいで土入れができるため、農業者からは「作業時間が大幅に軽減でき、省力化が期待できる」との声があった。 ○今後、機械の共同利用も視野に入れ、定期的な巡回や作業の省力化を進める。			
				<p>【ハイクリアランス仕様乗用管理機】 一般的な乗用管理機に比べ高い車高が確保でき、畑地の畝をまたいで土入れや防除等の管理作業が可能な乗用管理機。</p> <p>左：実演機の説明 右：ハイクリアランス仕様乗用管理機の実演</p>



標 題	大豆の収量アップに向けフェロモントラップを設置		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年7月8日、14日	場所	宇和島市三間町、津島町	
指導対象	農事組合法人はざめ、いわぶち	連携機関	農事組合法人はざめ、いわぶち	
普及指導内容	○大豆の大規模栽培を行う両法人では、昨年度、ハスモンヨトウの食害により、収量が約 200 kg/10 a と低迷したことから、飛来数に応じた適切な防除を指導するため、ほ場にフェロモントラップを設置した。 ○また、効果的な防除体系を策定するため、JA えひめ南と検討会を行い、結果を両法人に情報提供した。			
結果と今後	○フェロモントラップ設置後の調査により、各地域で初発を確認したため、今後の発生消長を注視しながら適期防除するよう指導した。 ○引き続き、害虫防除と併せて中耕や土寄せ等の栽培管理の徹底を指導し、収量 300 kg/10 a を目指す。			
				<p>左：設置したフェロモントラップ 右：ハスモンヨトウによる食害</p>



標 題	加工びわの省力栽培に向けたせん定・誘引を実演指導		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年7月15日	場所	宇和島市三浦	
指導対象	加工びわ生産農家（3人）	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○加工びわ団地の成園化が進む当地区では、栽培の省力化が喫緊の課題となっているため、高木性であるびわの樹冠上部の作業能率向上に向け、主幹の切下げと立ち枝を水平方向に誘引する低樹高化技術を実演指導した。</p> <p>○併せて、誘引後にはびわの重要病害である「がんしゅ病」の罹病を防ぐため、殺菌剤の散布徹底を呼びかけた。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「手間のかかる摘果や袋かけ作業が楽になりそう」と技術導入に前向きな意見が聞かれた。</p> <p>○今回は、秋以降に園内道の設置実演会を開催し、作業性の良い園地づくりを指導する。</p>			
		<p>左：せん定前（樹高 3.5m） 右：せん定後（樹高 2.5m）</p>		

標 題	水管理システム導入に向けた実証試験を開始		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和4年7月26日	場所	北宇和郡鬼北町小松	
指導対象	大規模水稲生産農家	連携機関	鬼北町、松野町、JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○水田における水管理システムの普及に向け、有効性や使用上の課題を検討するため、水稲生産農家ほ場で実証試験を計画。</p> <p>○実証するシステムは、水位センサーのデータをもとに農家がスマートフォン上で給水ゲートを開閉できるもので、水位・水温の測定や給水ゲートの開閉が正常に行われることを確認し試験を開始した。</p>			
結果と今後	<p>○今後、出穂期以降の細かな間断かん水について、従来の農家による水管理と本システムを比較し、省力効果や収量・品質面の違いを検証する。</p>			
		<p>左：給水ゲートを設置 右：センサーで収集したデータをもとに水管理を実施</p>		


標 題	ミニトマトの栽培を目指す研修生が経営事例研修を受講		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和4年7月21日	場所	西予市野村町	
指導対象	就農候補者（農業研修生）	連携機関	鬼北町農業公社、鬼北町	
普及指導内容	○鬼北町農業公社と連携し、研修生に対する施設野菜等の技術習得支援を行っており、来年2月にミニトマト栽培で新規就農を目指す研修生の視察研修を支援した。			
結果と今後	○研修先の(有)フローラルくまがいの熊谷氏から、ミニトマトの高品質栽培を目指した技術対策や販売を見据えたブランド化の取組み等の説明を受け、農業で地域の活性化に貢献する経営姿勢等を学んだ。 ○研修生は非農家出身ながら、地元鬼北町で生産から販売までの一体的な農業経営を目指しており、今回の研修では多くの刺激を得ることができた様子。 ○農地の取得については、現在、鬼北町農業委員会と連携し、候補地の選定に入っているが、今後の円滑な就農に向け、経営計画の具体化と生産基盤の確保を支援する。			
				<p>左：ミニトマト栽培システムを研修 右：ブランド化した選別・出荷体制を研修</p>


標 題	早期米産地の再生に向けた品種・技術のポイントを指導		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和4年7月13日	場所	愛南町 JA 南宇和営農センター	
指導対象	早期米部会南宇和支部総代	連携機関	JA えひめ南、愛南町	
普及指導内容	○令和4年産米の品質・生産性向上に向けた作業のポイントや新規需要米の生産拡大、新品種導入による産地の再興について指導した。 ○県内では、早期米産地として認知されているものの、目玉となる品種は「コシヒカリ」が中心であり、「ヒノヒカリ」や「にこまる」「ひめの凜」などの多様な品種も一部で導入されているが、面積、生産量は伸びていない。			
結果と今後	○今回の研修会を通じ、早期米産地の再興のためには、春ブロッコリーと組み合わせた水田の高度利用や、所得の向上につながる品種の導入と栽培技術の習得が必要なことを理解してもらえた。 ○今後は、緑肥作物の導入やブロッコリーの後作でも倒伏しない稲づくりなど、新しい技術や品種の導入に組織が積極的に支援することになった。			
<p>南宇和稲作部会 54年以上の歴史を持ち、部会員394名と南宇和営農センター最大の生産者組織。かつて、県下最初に「あきたこまち」導入を図った組織。</p>				<p>品質向上のポイントや期待の新品種などについて研修</p>


標 題	管内の生産者が西予市のピーマン産地を視察		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和4年7月12日	場所	西予市城川町	
指導対象	野菜生産農家（2人）	連携機関	JA ひがしうわ	
普及指導内容	○野菜生産農家2人が、夏秋ピーマン栽培導入に向け、西予市城川町の産地視察の実施を支援した。			
結果と今後	○農家は今回の視察を通じ、かん水方法や肥培管理、株の仕立て方などの疑問点が解消されたほか、病害虫管理では生育初期に斑点病を出さないことが大切との助言を受けた。 ○視察先の御厚意により、栽培後半の9月にもほ場を視察できることになり、引き続き来年度の試験栽培に向けた支援を行う。			
				<p>左：ピーマンを視察 右：視察先のピーマンほ場</p>



標 題	愛南町の就農研修生を対象に講座を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和4年7月5日、19日、26日	場所	県愛南庁舎（愛南町城辺）	
指導対象	就農研修生（3人）	連携機関	愛南町、JA えひめ南	
普及指導内容	○JA の研修施設で新規就農を目指している研修生を対象に、就農に役立つ知識や技術習得に向けた講義や実技指導の支援を行っている。 ○今回、ブロッコリー等の野菜栽培やかんきつの病害虫防除、他県の農業事情等の講義を行った。			
結果と今後	○研修生からは実習園地で見かけたかんきつ病害などの質問が出されるなど、講義と実習が相互に補完している。 ○今後、秋のせん定実技指導やかんきつ栽培の講義を予定しており、JA、町と連携しながら研修効果を高め、就農初期の経営安定につながるよう取り組んでいく。			
				<p>左：普及指導員による講義 右：研修生との意見交換</p>

標 題	福祉事業所職員を対象に温州みかんの摘果方法を指導		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和4年7月12日	場所	愛南町城辺地区	
指導対象	NPO法人「ハート in ハート なんぐん市場」(就労支援員3人)	連携機関		
普及指導内容	<p>○極早生温州の粗摘果について指導を行い、ポイントとして、収穫の早い品種、着果数が多く小玉が多い樹、樹冠外周部に着果している平均サイズよりも小さいものを中心に摘果することを伝えた。</p> <p>○摘果時には、枯れ枝を落とすことも重要な作業であることも併わせて指導した。</p>			
結果と今後	<p>○摘果の要点をできるだけ絞り、わかりやすい作業となるよう工夫。</p> <p>○次回は、8月に仕上げ摘果の進め方について指導を行う予定。</p>			
		<p>左：摘果資料の説明 右：摘果果実の確認</p>		



標 題	南宇和高校生にドローン撮影による園地の測定方法を指導		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和4年7月15日	場所	県立南宇和高校 (愛南町御荘平城)	
指導対象	南宇和高校生1、2年生(6人)	連携機関		
普及指導内容	<p>○農福連携を円滑に推進するため、南宇和高校が実施している「総合的な探究の時間」では、「農林業」「水産業」「文化・商工観光業」「防災対策・まちづくり」「地域医療・教育・福祉」の5分野に分かれて地域の課題解決に向けた活動を行っており、このうち「農林業」チームの生産研究グループ指導を同班が担当している。</p> <p>○今年度は、柑橘の省力化栽培を進めるため、ドローンを使用したかんきつ園地の状況把握を研究テーマとしており、今回、ドローンの操作および撮影方法について指導した。</p>			
結果と今後	<p>○指導後、生徒らは「思ったよりも操作しやすかった」「調査できるほどの技術を身に付けたい」と話していた。</p> <p>○9月には同校の実習園で、実際にドローンの飛行と撮影の実習を行い、園地の概況を把握する予定。</p>			
		<p>左：ドローンの操作方法をレクチャー 右：ドローンによる撮影</p>		



標 題	愛南の幸「ふるさと小包」を発送！		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和4年7月7日	場所	企業組合パトリッキング加工所 (愛南町)	
指導対象	企業組合パトリッキング(3人)	連携 機関		
普及指導 内容	<p>○当室が活動支援している企業組合「パトリッキング」は、愛南生活研究協議会員が主体となって令和3年1月に設立され、「河内晩柑」を活用したジュース、ゼリーの製造や柑橘、「ふるさと小包」の販売、マルシェの開催などを行っている。</p> <p>○ふるさと小包の販売は年2回行っており、今回は、加工品詰合せセットと「河内晩柑」(5kg入)の2種類の商品を用意。当室では、報道機関への情報提供やPR活動を支援した。</p>			
結果と今後	<p>○加工品詰合せセット86個、「河内晩柑」(5kg入)57個、計143個の注文があり、全国へ向けて発送した。</p> <p>○次回12月の発送に向け、商品内容の検討や広報等の支援を行っていく。</p>			
				
ふるさと小包の商品				

標 題	新規就農者の確保・育成・定着について関係機関と意見交換		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和4年7月15日	場所	県愛南庁舎(愛南町城辺)	
指導対象		連携 機関	愛南町、JA えひめ南	
普及指導 内容	○関係機関に働きかけ、Iターン就農者の確保育成について意見交換を行った。			
結果と今後	<p>○愛南町では移住就農者の受入れを進めたい意向が、JA研修施設では研修生としてIターン就農希望者も受け入れたい意向がそれぞれあり、これらの実現には住居の確保が先決であるとの意見があった。</p> <p>○JAでの研修終了後における“のれん分け”就農の実現には、研修施設の規模に見合った担当JA職員の安定確保が必要であり、さらに農地の確保にあたっては、町やJA等による貸借の仲介が必要であるとの意見が出された。</p> <p>○次回は、住居や農地の確保、研修施設の充実等について議論を深めていくことにしている。</p>			
				
関係者間で意見交換				


標 題	欧州へ向け河内晩柑を輸出		機関名	南予地方局産地戦略推進室 愛南農業指導班
年月日	令和4年7月7日	場所	一本松ふるさと生活館 (愛南町一本松)	
指導対象		連携 機関	愛南町、JA えひめ南	
普及指導 内容	<ul style="list-style-type: none"> ○「河内晩柑」の新たな販売チャネルとして輸出に取り組んでおり、欧州への初出荷に向け、相手国への輸出条件に適合した調製作業を実施した。 ○欧州の基準に対応した栽培を行う登録園地で収穫した果実について、植物防疫所による検査後、消毒・梱包作業を行い、最終的に計100kgが輸出された。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○今後、空路にて欧州へ運ばれたのち、現地（フランス、ドイツ、スイス）では県及び愛南町の職員が市場関係者向けにプレゼンテーションを実施。現地での反応をもとに今後の本格輸出に向けた対策を検討することとしている。 			
				<p>左：果実を検査する植物防疫所職員 右：選別と洗浄作業</p>



標 題	産直市出荷者へ「媛かぐや」を提案		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和4年7月1日	場所	宇和島市 道の駅みま会議室	
指導対象	道の駅みま出荷農家（7人）	連携 機関	道の駅みま	
普及指導 内容	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢化による出荷者減少等で販売額が伸び悩んでいる道の駅みまの売り場充実を図ろうと、新規品目の導入を提案。7月1日、県育成さといも品種「媛かぐや」の栽培講習会を開催した。 ○事前募集により栽培希望のあった出荷者を対象に、特長や栽培ポイント、出荷・調整方法などについて説明。 ○講習会后に、県農林水産研究所より実証・試験用として提供を受けたセル苗を合計300株配布し、農家はその日のうちに定植した。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○12月頃の収穫見込みで、売り場に専用コーナーを設置して販売する予定。 ○「媛かぐや」を皮切りに新たな高収益品目提案を計画しており、品目ごとの講習会や園地巡回指導を行っていく。 			
				<p>左：「媛かぐや」のセル苗 右：定植作業</p>



標 題	適正施肥に向け土壌診断を呼びかけ		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和4年7月13日～	場所	松野町	
指導対象	松野町梅振興会員（19名）	連携機関	松野町梅振興会	
普及指導内容	○生育に応じた適切な施肥に向け、土壌の実態を把握するため会員に対して土壌分析の実施を呼びかけた。			
結果と今後	○呼びかけの結果、肥料高騰の状況下で、自園の状況を知りたいと15人から34園地の分析希望があり（昨年18園地）、土壌サンプルの採取、分析を開始した。 ○園地ごとの分析結果をもとに個別巡回や講習会を行う予定であり、堆肥の活用などコスト低減対策等とあわせ、適正な施肥に向けた指導を強化していく。			
				<p>左：土壌サンプルの採取 右：土壌 pH の分析</p>



標 題	簡易アシストスーツの実用性を検討		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和4年7月1日	場所	JAにしうわ本店	
指導対象	西宇和スマート農業推進協議会関係者（20人）	連携機関	西宇和スマート農業研究会（JAにしうわ、八幡浜市、伊方町、県農林水産研究所、農産園芸課ほか）	
普及指導内容	○運搬作業の軽労働化を目的に、商品化されているアシストスーツの実用性検討会を開催した。 ○これまでの実証の中で有効性が確認された3機種について、メーカーによる紹介や、着用体験を行い、関係者で実用性の確認を行いながら性能等を評価した。			
結果と今後	○検討会後に実施したアンケート調査結果で各機種の特徴を把握し、その中で総合評価が高い機種を選定した。 ○当該機種については、JA 購買店舗での取り扱いをメーカーと検討することとした。			
				<p>左：メーカーが特徴などを紹介の確認 右：関係者による着用体験</p>

標 題	日の丸地区で担い手支援チーム設立説明会を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和4年7月28日	場所	JAにしうわ矢ノ崎出張所	
指導対象	日の丸柑橘共同選果部会役員等（15人）	連携機関	JAにしうわ、八幡浜市	
普及指導内容	<p>○かんきつ産地の維持・発展に向けた担い手の確保・育成を図るため、移住就農希望者に対して、農業体験や農業研修、就農・定着までのサポートを行う就農支援チームの各地区設立を目指している。</p> <p>○就農支援チーム未設立の日の丸地域で、研修制度の概要、担い手支援チームの流れや役割、他地区の設立状況や過去の研修生の受入状況などの説明を行い、設立に向けた働きかけを実施した。</p>			
結果と今後	<p>○当地域においても生産者数が減少し、荒廃農地が増加傾向にあることから産地の維持に危機感を感じており、設立について前向きな意見交換がなされた。</p> <p>○今後、集落内で検討を行うとともに、関係機関と協議を重ねながら設立を目指す。</p>			
				
担い手支援チーム設立状況（R4.4時点 12地区）		担い手支援チーム設立検討会		

標 題	「清見」の果皮障害軽減に向けたカルシウム剤散布の推進		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和4年7月1日～11日	場所	伊方町三崎地区	
指導対象	「清見」生産者（208戸）	連携機関	JAにしうわ	
普及指導内容	<p>○昨年、カルシウム剤を散布した生産者を対象にアンケート調査を行ったところ、効果を実感しなかった生産者は、推奨される3回より少ない回数しか散布していない傾向になることが明らかとなった。</p> <p>○この結果を基に、JAにしうわとカルシウム剤の3回散布を促す啓発資料を作成し、摘果講習会時に生産者に配布・指導を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者は、アンケート調査結果より、3回散布の重要性を深く理解した。</p> <p>○今後も個別巡回等を行い、適切なカルシウム剤散布の実施に向け、引き続き普及推進を行う。</p>			
<p>【「清見」の果皮障害】 秋季の少雨や収穫期の高温により、収穫間際や貯蔵中に発生する生理障害。カルシウム剤による果皮強化が有効な対策とされている。</p>				
		生産者に対し資料を説明		

標 題	第1回シトラス講座を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室	
年月日	令和4年7月11日	場所	八幡浜市川上地区		
指導対象	新規就農者（85人）	連携機関	八西CATV		
普及指導内容	<p>○新規就農者の栽培・経営技術向上を目的に、現地講習やコロナ感染防止のため地元CATVを介した映像講座等、年6回のシトラス講座の開催を計画している。</p> <p>○第1回目は「農家の事例紹介（倉庫）」と題し、大型倉庫を所有している農家で映像講座を収録、放映した。</p>				
結果と今後	<p>○映像では、農家の説明を交えながら、大型倉庫におけるフォークリフトを利用した省力的なパレット運搬体系を紹介した。</p> <p>○放映後、新規就農者からは「倉庫を実際に見てみたい」「今の倉庫で応用したい」と好評であった。</p> <p>○次回以降のシトラス講座は「ドローンによる防除」、現地講習会は「仕上げ摘果」を予定しており、地方局予算事業「南予儲かる農業人材育成事業」の重点対象に対しても、積極的な受講を呼びかけるとともに、YouTubeによる配信も行う。</p>				
					<p>左：農家の大型倉庫で収録 右：CATVで放映</p>

標 題	傾斜園地作業効率化モデル整備事業に係る推進会議の開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室	
年月日	令和4年7月12日	場所	伊方町役場、同町中浦地区現地ほ場		
指導対象	農事組合法人 笑柑園ナカウラ(事業受益者)	連携機関	JAにしうわ、伊方町、農産園芸課ほか県関係機関		
普及指導内容	<p>○伊方町中浦地区において本年度、「傾斜園地作業効率化モデル事業」（県単）に係るモデル園地（約30a）を整備することとしており、工事実施に当たっての注意点等を共有するため、関係機関による園地改良推進会議を開催した。</p> <p>○現地ほ場では、整備予定地の現況を確認。長年放任されていたほ場は、雑木等が生い茂っていたが、ほぼ全園の伐採作業を完了している。</p> <p>○当該地は南予用水によるスプリンクラー施設の受益地であったことから、工事に当たっては、配管への損傷等に留意することや、配管やスプリンクラーの設置位置を変更する場合には届出が必要であることを確認した。</p>				
結果と今後	<p>○工事では大小のテラスが組み合わされた段畑の緩傾斜化や段幅の拡張を行い、労働生産性の向上を図ることとしており、今年度末の完成を目指す。</p> <p>○今後、具体的な整備方法について、関係機関、受益者と協議するとともに、モデル園地の植栽品種や植栽方法の指導を行う。</p>				
					<p>左：モデル園地の確認 右：伐採後の整備予定園地</p>

標 題	三崎地区の青年農業者が地元高校生を対象に出前授業		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和4年7月15日	場所	県立三崎高校	
指導対象	三崎地区青年農業者連絡協議会員 (4人)	連携機関	県立三崎高校	
普及指導内容	<p>○三崎地区青年農業者連絡協議会が、地元高校生に農業に興味を持ってもらうため取り組む出前授業の実施を支援した。</p> <p>○今年度は、三崎地区の農業史と栽培品種、各農家の紹介を行ったあと、質問コーナーを設け、高校生からの農業に関する質問に回答した。</p> <p>○また、より身近に農業を感じてもらうため、収穫時における作業体験の提案を行った。</p>			
結果と今後	<p>○高校生からは、「年収はいくらか」「品種は誰が作るのか」「園地はどのくらいの広さがあるのか」等の質問があり、地域の基幹産業を知る良いきっかけになった。</p> <p>○今回は、1月に三崎柑橘共同選果部会の見学と園地視察、作業体験を予定している。</p>			
				<p>左：三崎農業史の解説 右：生徒との意見交換</p>




標 題	高糖度果実安定生産技術シールディング・マルチの現地実証試験を開始		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和4年7月21日	場所	八幡浜市高野地地区	
指導対象	かんきつ生産農家（実証農家）	連携機関	みかん研究所、JAにしうわ	
普及指導内容	<p>○八幡浜市高野地地区の2園地に、新しい高品質安定生産技術として注目されているシールディング・マルチ(以下、S.マルチ)の実証ほを設置した。</p> <p>○本試験は農研機構果樹茶業研究部門を代表機関とし、愛媛県をはじめ佐賀県や長崎県、民間企業、JA等が参加し実施されており、令和4年～6年の3ヵ年事業である。</p> <p>○試験内容のほか、S.マルチの設置方法や効果について説明した。</p>			
結果と今後	<p>○本技術は温暖化による多雨等に対応した技術として期待されることから、関係機関と連携しながら、果実品質調査などを実施する。</p>			


【S.マルチ】

排水設計した園地で、防根性・防水性専用のシールディングシートを園内に埋設した上で、マルチ栽培を行う技術。
根域への雨水の流入を阻止するとともに、シート外への根の伸長を防ぐ。



シールディングシートの埋設作業

標 題	青年農業者が荒廃農地再生へ立ち上がる		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和4年7月21日	場所	内子町長田地区	
指導対象	内子町青年農業者協議会（6人）	連携機関	内子町、JA 愛媛たいき	
普及指導内容	○葉たばこ作付跡地で荒廃園地となっている国営開発農地（上高屋団地）の再生に向けた活動に取り組む協議会プロジェクトの一環で、当班所有のドローンで園地を俯瞰し、除草作業の状況等を把握しながら効率良く作業するよう指導した。			
結果と今後	○団地の一部（4,707m ² ）の除草を完了した。今後は、雑木の除去等を実施して整地し、農村景観の維持や新規就農者への再生農地の斡旋、栽培品目の選定などの具体的な活用方法について協議していく。 ○ラジコン草刈り機の利活用について要望があったため、今後、関係機関と連携して研修会を開催し、省力化や作業の効率化について指導する。			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>作業工程の打ち合わせ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ドローンで経過確認</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>作業完了した園地</p> </div> </div>				

標 題	ICT を利用した大型捕獲おりの現地研修会の開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 " 大洲農業指導班
年月日	令和4年7月12日	場所	内子町五百木地区	
指導対象	八幡浜市・伊方町・内子町の ICT 捕獲おり管理者等（6人）	連携機関	伊方町、内子町、JA 愛媛たいき	
普及指導内容	○鳥獣被害が多発している八幡浜市及び伊方町において、遠隔操作でイノシシを捕獲できる ICT を活用した大型捕獲おりによる鳥獣害対策を指導している。 ○さらなる効率的な運営に向け、同おりを有効活用している内子町の先進事例を調査する研修会を開催した。			
結果と今後	○えひめ地域鳥獣管理専門員（JA 愛媛たいき）からの助言や意見交換を通じ、参集者は定期的に捕獲おりを確認し、餌付けを欠かさず行うことが重要であることを学んだ。 ○研修会で築いた両地域の貴重なネットワークを活かし、今後も同おりを用いたイノシシの捕獲技術の向上を目指す。			
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 40%;"> <p>【ICT 捕獲おり】 センサーによりおりの入口付近でイノシシを感知するとメール通知と録画が行われる。スマートフォン等でライブ映像を確認し、遠隔操作で入口を閉めることができる。</p> </div> <div style="margin-left: 20px;">  <p>大型捕獲おりの管理者による説明</p> </div> </div>				

標 題	青年農業者と農業高校生の交流・研修会を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和4年6月30日	場所	大洲市内	
指導対象	大洲喜多地区青年農業者連絡協議会 会員（5人）	連携 機関	県立大洲農業高校、大洲市	
普及指導 内容	<p>○地元農業高校生への生産現場の紹介等による就農意欲の高揚、交流を目的とした交流・研修会の開催を支援した。コロナによる延期があったため3年ぶりで、希望する1～3学年21人が参加した。</p> <p>○会員に対し、本イベントでの組織の役割認識と、高校生へわかりやすい説明方法等を指導した。各会員は経営概要の紹介のほか、収穫時期を迎えたスイカの収穫体験と試食、観光梨園でのロボット草刈機の実演を紹介。質疑応答にも対応した。</p>			
結果と今後	<p>○熱心な高校生の質問に丁寧に対応できた。</p> <p>○年3回計画しており、今回は12月と3月予定。関係機関の連携を密にして今後も有効なプログラムを仕組むよう、青年農業者組織を指導する。</p>			



お互いに自己紹介



スイカ栽培の説明

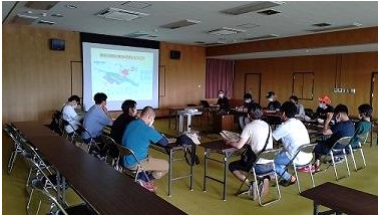





ロボット草刈機の実演


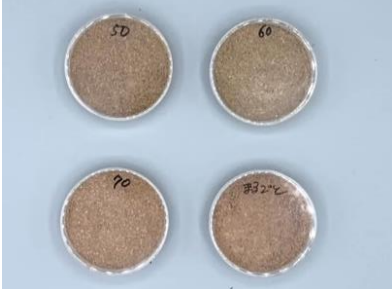
標 題	青年農業者のかんきつ出前授業を支援		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和4年7月5日	場所	西予市立明浜小学校	
指導対象	明浜町青年農業者協議会（11人）	連携 機関	西予市	
普及指導 内容	<p>○青年農業者が、明浜小学校5年生児童18人に対し、かんきつの出前授業を実施するに当たり、活動を支援した。</p> <p>○授業では、かんきつの品種や重要な農作業についてスライドを活用しわかりやすく説明するほか、かんきつ栽培にかかるクイズを出題するなど農業への関心が高まる工夫を行った。</p>			
結果と今後	<p>○児童からは、「みかんは日光をたくさん浴びたほうが良いのか」「なぜみかんはオレンジ色なのか」などの質問があるなど、地元かんきつ産業への理解を深めることができた。</p> <p>○今後は摘果や収穫などの農作業体験を計画しており、引き続き青年農業者活動を支援する。</p>			






左：授業に関心を示す児童
右：出前授業のプレゼン資料

標 題	西予市三瓶町4Hクラブが土壌改善技術を研修		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和4年7月14日～15日	場所	果樹研究センターほか	
指導対象	西予市三瓶町4Hクラブ会員（11人）	連携機関	果樹研究センター、JA えひめ中央、西予市	
普及指導内容	<p>○若手かんきつ生産者の栽培技術の向上を目的とし、かんきつ園地の土壌改善技術や他産地優良生産者の栽培状況等について視察研修を実施。</p> <p>○研究員や生産者との質疑応答の場を設け、土壌改善における堆肥施用時の注意点や品種毎の樹形管理、摘果等の作業において重視している点等について意見交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○土づくり等、栽培管理の重要性について改めて認識させることができた。</p> <p>○同クラブが今年度実施している豚糞堆肥の柑橘苗木への試験的な施用について指導するとともに、肥料高騰対策として、堆肥利用による土壌改善等についての意識を高めていく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> <p>【4Hクラブ】 青年農業者を中心に組織され、各地域の農業の課題や技術向上等を目的とした活動を行う組織。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>果樹研究センターでの土壌改善技術研修</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>優良生産者ほ場の視察</p> </div> </div>				

標 題	「川田温州」の安定生産に向けた意識統一		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和4年7月6日	場所	八幡浜市内各地	
指導対象	川田温州生産推進協議会員他（14人）	連携機関	みかん研究所	
普及指導内容	<p>○「川田温州」は隔年結果性が強いいため、連年安定生産につながる半樹交互結実法の講習会を開催した。</p> <p>○半樹交互結実法を推進するため、管内8園地を巡回指導した。</p> <p>○併せて、肥料高騰対策、農薬安全使用及び熱中症予防について資料を配布し啓蒙した。</p>			
結果と今後	<p>○各園地の新梢伸長抑制剤及び摘芯処理効果を確認するとともに、半樹摘果の時期及び程度について意見交換を行うことで技術の意識統一が図られた。また、年々安定した生産に繋がっており、生産意欲の向上がみられる。</p> <p>○若い生産者には、作業ポイントについて再度巡回指導を行い、技術向上を図っていく予定。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>左：摘果法のポイント指導</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> <p>【半樹交互結実法】 6月下旬頃に主枝単位で樹の半分を摘果することによって、果実品質に影響を及ぼさず収量が安定する方法。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>右：生産者同士の意見交換</p> </div> </div>				

標 題	フィンガーライムの加工品 試作第2弾		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和4年7月5日～13日	場所	八幡浜市、松山市	
指導対象	フィンガーライム生産農家	連携機関	県産業技術研究所	
普及指導内容	<p>○フィンガーライムの生産量の増加が見込まれることから、販売の多角化を見据え、産業技術研究所と連携して加工品の開発を進めている。</p> <p>○瓶詰加工では利用しない果皮を活用したパウダーを試作することとし、格別の冷凍果実が利用できるか試験した。</p>			
結果と今後	<p>○果実が小さく果肉除去に時間がかかる（5時間/果実1kg）が、冷凍果実でもフィンガーライム特有の香りを残すことが可能であった。また、皮の乾燥温度が低いと緑系、高いと赤系の色になることが判明した。</p> <p>○今後は、パウダーの香りを活かした利用方法について検討する。</p>			
				<p>左：果肉除去による前処理 右：乾燥温度等を変えて試作したパウダー</p>

標 題	新規採用農業職職員を対象に新任普及職員等研修（前期）を実施		機関名	農産園芸課 企画調整グループ
年月日	令和4年7月19日～22日	場所	県研修所及び農業大学校	
指導対象	新規採用農業職職員 12人	連携機関		
普及指導内容	<p>○同研修は、普及職務の理解を深めるとともに、農業職としての実践的な技術や知識を身に付け、普及指導活動を円滑に推進するために実施している。</p> <p>○4日間の研修では、農業振興局長の講話のほか、本県農業の現状、課題等や若手普及職員に求める資質等の講義を行うとともに、農業大学校職員がトラクタやラジコン草刈機、ドローン等の農業機械実習を行った。また、若手先輩職員と普及活動上の悩みについて意見交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○研修生からは、「今回の研修をしっかりと現場の業務に活かしたい」「普及業務の幅広さについて理解を深めることができた」などの意見があった。</p> <p>○後期の研修は12月に実施し、栽培管理や病虫害診断等に関する知識の習得等を行う予定である。</p>			
				
農業振興局長の講義		農業機械実習		先輩職員との意見交換

標 題	第 1 回作物調査研究会を開催		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和 4 年 7 月 19 日	場所	リモート開催	
指導対象	各普及拠点作物担当者ほか (31 人)	連携 機関	各普及拠点、県農林水産研究所、農 業大学校	
普及指導 内容	<p>○作物担当普及指導員の知識と技術の向上に向け、年度当初に取組を協議した「ひめの 凧金賞プロジェクト (コンクール入賞を目指した良食味栽培実証)」の計画と中間結 果について、当グループ及び各普及拠点から報告、協議した。</p> <p>○当グループでは、実証ほの作付け前に土壌中の可給態窒素を簡易測定し、その結果を 基に試験区を設定し、これまで概ねの試験区の根の状態が健全であったことを報告。</p> <p>○また、各地域の水稻の生育状況について共有し、一部で発生のみられるいもち病につ いて注意、指導を徹底することを確認した。</p>			
結果と今後	<p>○協議のなかで良食味や収量確保に向けて、堆肥等の施用時期・量を継続して検討する こととした。また、適期収穫時期の実証・調査を実施し、今後の栽培管理に反映させ る。</p> <p>○今後も各拠点で調査、実証を継続し、収穫後は各実証ほから米・食味分析鑑定コンク ールに出品する予定。</p>			



オンライン上で協議





計画と中間結果について報告

標 題	「ひめの凧」の穂肥講習会を開催		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和 4 年 7 月 22 日～7 月 29 日	場所	県内 7 カ所 (延べ 8 回)	
指導対象	「ひめの凧」認定栽培者ほか (207 人)	連携 機関	JA (全農、周桑、未来、東宇和、え ひめ南、越智今治、今治立花)	
普及指導 内容	<p>○中干終了後の間断かん水から幼穂形成期以降のたん水管理へ移行する重要性や基肥 一発肥料の穂肥の考え方、栽培管理ポイントを資料 (マニュアル等) に基づき解説。</p> <p>○また、「いもち病」「稲こうじ病」「トビイロウンカ」「カメムシ類」などの発生生態と 適期防除の必要性を指導。</p> <p>○中干講習会に引き続き、現地と県農林水産研究所とのリアルタイム通信にタブレット を活用し、作物の生育状況などのリアルな情報交換を双方向で実施した。</p>			
結果と今後	<p>○講習会に用いた中干し資料は県ホームページで公開し、認定栽培者等への周知を図る 予定。</p> <p>○令和 4 年産の「ひめの凧」の高品質・良食味米生産に向けて、適期収穫や乾燥調製の 仕上げを重点的に指導していくこととする。</p>			



左: 穂肥・出穂後管理について
右: 現地での栽培講習

標 題	かんきつ基盤整備ほ場で緑肥作物の栽培が土壌流亡抑制効果を発揮		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和4年7月20日	場所	松山市下難波	
指導対象	農業法人	連携機関		
普及指導内容	○基盤整備後の土壌流亡・土づくり対策の実証を行っているかんきつほ場において、緑肥作物として4月に播種したソルゴの生育状況および土壌流亡の抑制効果を確認し、今後のソルゴの処理方法とその活用について指導した。			
結果と今後	<p>○整備後1年目のほ場（50a）では、土壌水分が多い程ソルゴの生育が優れ、播種後から生育期の間は土壌条件や降雨の状況に応じた水分の保持が必要なことを確認。</p> <p>○同2年目の今年3月に苗木を植え付けたほ場（60a）では、等高線状に栽培したソルゴが緩衝帯となり、大雨による土壌侵食、流亡の抑制や防風等による幼木の生育促進の効果を確認。</p> <p>○今後、地上部5cm程度を残しソルゴを刈り取って、土壌流亡の抑制効果を保持したまま地上部の再生を促し、刈り取った茎葉は有機物の供給に利用するほか、幼木の樹冠下に敷き詰めて土壌乾燥防止にも活用する。</p>			
				
	<p>土壌水分の多少による生育差 （手前側は乾燥しやすい、1年目のほ場）</p>		<p>等高線状に高さ2m程に生育したソルゴ （2年目のほ場）</p>	

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々 1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543